

大門地区

日付：令和5年8月2日（水）

場所：ウイングロードビル2階 core塩尻

会場：38名 オンライン：19名

出席者：市長 企画政策部長 建設事業部長 企画課長 都市計画課長 企画係長 計画係長 企画係1名 デジタル戦略課1名 計画係1名

グループごとの発言

■ グループ①

- ・ 大門地区の課題にもあったが、お店がなくなっているということは課題だと思う。えんぱーくにあったウィズの森はなくなり、ウイングロードのトムズカフェも今月閉店で、その隣のタコとハイボールも休業中、ロースターもなくなってしまい、集ってお茶を飲んで話をする場が今はもうないという状態。やっぱりそれは寂しいし、それを何とかしてほしいなという意見があった。
- ・ 大門が活性化していないということは、もうだいぶ前から問題提起されていることだと思うが、過去の9年間、市として何を目標にして取り組んできたのか、その成果が分からない現状がある。そこについては、何かの形でこの9年間の取り組み・目標・成果についてはお聞きしたいと思う。
- ・ 大門は人通りが少ないが、歩道がすごくでこぼこしていて非常に歩きにくい。私は職場が一番町にあるので昼間見ていると、高齢の方が押し車を押して買い物に行く姿を見る。そういったときに歩きにくそうにしているとか、これが仮に車椅子の人だったらどうなのか、という問題もある。一見良いように見えるが、高齢者や障がい者の皆さんが歩きにくい歩道はどうなんだと感じている。
- ・ 私は残念ながらアルコールが駄目で全く飲まないのでも恩恵がないが、塩尻市のワインは名産だが、ワイン、ワインと言う割には市内でワインが美味しく飲めるレストランがあるか、というのではないと感じている。
- ・ 子育てについて、若い人が集まらないと人も来ないのかな、という意見も出た。子育てや、若い人に対してもいろいろやっていると思うが、ここも効果が出ていないと感じている人もいて、もう少し何かやるべきことがあるのではないかという意見が出た。

■ グループ②

- ・ 私は大門地区ではなく塩尻東地区在住だが、どうしても発表をしろということでさせていただく。話し合いがバラバラになってしまったが、やはり大門地区というのは商業の街ということで、そこが何となく寂しくなってきたね、という話があった。駅周辺に温泉とか、旅館とか、もっともっと人が来るようなものがあつたらいいね、という希望が出た。
- ・ 質問というよりも意見になるが、いじめ根絶のため専門窓口を要望する。塩尻市は人権尊重都市と明言しているので、そこが1年経ってどうなりましたか、という質問があった。

■ グループ③

- ・ 私は大門六番町在住だが、このグループでは大門のことにする話し合いにはならず、お母様と中学3年生の息子さんが来ていらっしゃるところから、お子さんがこれからの未来にどうやって生き抜いていっていただけるか、という話をさせていただいた。
- ・ その中で私はずっと思っているが、学校での性教育の重要性を思っていて、今学校の先生方はとても忙しくていろんなことをやらなければならないが、性教育は命を考える初歩的な、最初の重要な課題でもある。従来の性教育に加えて、多様性や人間関係などを広く捉えた包括的性教育の必要性が世界的に広がっていて、記事でも目に留める機会が多くなっている。お子さんを大事にしていきたい、お子さんの未来が本当に開けた未来であるようにしていくには、人間性をしっかり高めていただきたいということで、性教育が必要ではないかという話になった。

■ グループ④

- ・ 3人のグループのうち2人が違う地区の市議員だったため、大門地区の私が発表する。大門地区の強み、弱みを挙げていただいたが、市でざっくり挙げられると、あまり大門地区としては考えないかもしれない。地区の人に抽出させた方がいいのではないかと。年代別やその地区によっても強み、弱みはかなり変わってくると思う。

- ・ 大門地区は市の機能を全部持っているいいよね、と言われた。確かにそうだが、逆にこちらからしたら、例えば北小野はしっかりと地区のまとまりがあって、何かがあったらみんなが集まるぞ、という気配があるが、大門地区はどうか。環境の良さに甘えて、あまり地域のことを考えず、私も含めてかもしれないが、羨ましいと言われる部分と、逆に空洞化する部分があるのではないか。

- ・ 塩尻市は6万人の構えがあって、6万人分の機能が欲しい。でも、大門地区の1万人だけではそれを全部吸収しきれない。塩尻市の他の地区の人たちは、北の松本市に流れてしまうとすると、結局本質的な無理があるのかなという気がしている。羨ましいということと、大門地区がそれを使い切れていないのかな、というようなことを感じている。

■ グループ⑤

- ・ 呼称の問題で、大門地区が中心市街地という呼ばれ方をしているのは、行政の中心があるからだろうと思うが、人口から言えば広丘の方が遥かに中心化していて、本当は広丘の人が自分たちのために税金を使ってくれ、と言ったらむしろそちらに使わなければいけないのではないかと思うぐらい。
- ・ 私が育った時代は、高度経済成長のとことん上を向いていた時期だったため、大門が良くて、玄蕃まつりなどのときもふっと人が湧く状況だった。先日の玄蕃まつりでも、本当にどこにこんなにたくさん人がいたのかと思うぐらいだったが、普段はそんな感じがしない。
- ・ 阿礼神社のある地区の「ああいう感覚」が昔の大門にもあった。今の感覚は、はっきり言って広丘の方がずっともう本当に栄えて市街化している。中心市街地というよりも周辺市街地という感じがしていて、そういったことが全部、昼間のランチ営業がほとんどない、それをやろうとした店は潰れていくような流れに繋がっているのではないか。
- ・ ワインについては、地ワインを主にしている店は非常に大変だったと思う。みんな零細のワイナリーで高額になる。白ワインは本数をたくさん出さないと単価を下げられない。大企業が本数をたくさん出すチリ産、スペイン産ワインの1本数百円に対して、塩尻市のワインだと3,000円から4,000円ぐらいのものほとんど同じ品質でとても勝てない。
- ・ 逆に言うと、そういうところを強みにしていくんだとすれば、春のワイナリーフェスタを1回やるだけではなく、全部のワイナリーが春の1週間とか秋の1週間だけ、そのときだけはワインを味見することができるという形で観光客を集めるようなことができないか。とても手が足りない、お金がなくてできない、ということであれば市が資金を投入して補助するようなことができないか。そうすることでワイン特区なども非常に意味を持ってくる。そうでないと、1軒、2軒開けてワイナリーがあると言っても、別に行かなくてもいいとなってしまうのではないか。活用するのであれば全部のワイナリーが開けてくれる機会を持たせる工夫をしないと多分駄目だろうと思う。
- ・ 東山食堂は今ではもう全国ブランド化しているが、あそこのジンギスカンの自動販売機が塩尻駅にはなくて広丘駅にはある。もう、これだけで商売をやっている人も分かっているということ。塩尻駅周辺でやっても潰れてしまうから意味がないから広丘駅周辺にあった方が売れるんだということ。

■ グループ⑥

- ・ 残念ながらこういう町にしたいという意見よりも、疑問点をいくつか挙げるような話し合いになった。どういうことかというところ、大門地区の資料③のところ、地区の強み、地区の弱みという分析がなされているが、この分析結果は少し納得できない、現実的ではないのではないかという意見がいくつか出た。
- ・ 具体的には、強みに「公共交通機関の高い利便性」とあるが、首都圏へのアクセスを考えるとむしろ陸の孤島ではないか、という意見や、「機能的にも良好な道路空間」とあるが、現実的には非常に危ない箇所がある。国道と県道が交差する日ノ出町の交差点などは今すぐ改善していただきたいということもあり、優先して対応していただきたい。
- ・ 地区の強みの中の3番目のところに「多様な都市機能」とあるが、この多様なとか、都市機能の具体性がもっと欲しい。外部要因と内部要因を分析した結果が示されていると思うが、ここは肝になる部分でもあるので一般市民も含めて検討した方がいいのではないか。